

Apple vs. Masimo特許訴訟（2025年11月）調査レポート

はじめに

2025年11月16日に報じられたAppleとMasimoの特許訴訟判決は、ウェアラブルヘルスケア市場に大きな波紋を広げた。本レポートでは、ロサンゼルス連邦陪審がMasimoの血中酸素濃度測定に関する特許をApple Watchが侵害したと認定し、約6億3,400万ドル（約980億円）の損害賠償を命じた判決の経緯と影響を整理する。以下では①判決の詳細、②過去の法的紛争の時系列、③技術的な争点分析、④Apple側の反応と控訴の可能性、⑤株価への影響と経営陣のコメント、⑥専門家の見解、⑦ウェアラブル市場への波及効果を包括的に検討する。

1. 2025年11月の判決：陪審員が認めた侵害事実と賠償額の算出根拠

1.1 訴訟の焦点

訴訟の中心となったのは、Masimoが保有する「低電力パルスオキシメータ（U.S. Patent No. 10,433,776）」である。この特許は、酸素飽和度や脈拍を測定するパルスオキシメータにおいて電力消費を抑えるために、サンプリング機構や特定のパラメータを監視して低電力状態をオン／オフする仕組みを規定している^①。Masimo側は、Apple Watchの運動モードや高心拍数通知機能がこの技術を「患者モニター」として継続的に使用しており、特許侵害にあたると主張した。

Appleは、Apple Watchの血中酸素アプリは医療用ではなく、ユーザーがじっとしている短時間に限って測定する補助的機能であり、患者モニターには該当しないと主張した。また、Masimoが訴えた特許は2022年に失効し、30年以上前の技術に基づいていると反論した^②。争点は「患者モニター」の定義に集約され、Masimoは高心拍数アラートの感度が95%であることやApple内部文書で「世界で最も利用されている心拍数モニター」と記されていることを示し、Apple Watchが連続的な生理イベントを監視する医療機器に該当すると訴えた^②。Appleは心拍数警告が10分間静止している場合にのみ発動することから連続監視ではないと主張したが、陪審員はMasimoの論拠を支持した^③。

1.2 賠償額の算出

陪審員は、Apple Watchの運動モードと高心拍数通知機能がMasimoの特許を侵害したと認定し、損害額約6億3,400万ドル（約980億円）の支払いを命じた。この金額は、Masimoが要求した1台当たり14.72～17.39ドルのライセンス料の下限に近い数字で、対象は2020～2022年に発売されたSeries 6・7・8などの約4,300万台のApple Watchである^③。Appleは3～6百万ドル程度の支払いしか認めていなかったが、陪審員はMasimo側に有利な低限の額を採用した。

1.3 裁判所の判断理由

裁判で最大の争点となった「患者モニター」か否かについて、陪審員は機器が高心拍数などの生理状態を継続的に監視するかどうかに注目した。Masimoの専門家は、Apple Watchの高心拍数通知機能がイベントの95%を検出することを挙げ、連続的な監視を行っていると主張した^③。Appleは「ユーザーが10分間静止しなければ測定されないため連続監視ではない」と反論したが、陪審員はMasimoの論拠を採用し、Apple Watchが特許が想定する患者モニターに該当すると判断した^④。

2. AppleとMasimoの法的紛争の時系列

年月	主要出来事	出典
2013～2014年	Appleは患者モニタリング技術の専門家であるMasimoから技術者を採用し、血中酸素測定機能の開発を開始。Masimoは後にこの採用が技術の盗用につながったと主張。	—
2020年1月	MasimoはAppleをターゲットに特許侵害訴訟を起こし、Apple Watchがパルスオキシメータ技術を無断で利用していると主張。	5
2023年1月	米国国際貿易委員会（ITC）の行政法判事が、Masimoの特許2件をAppleが侵害したと判断し、輸入禁止の可能性が生じる ⁵ 。	5
2023年5月	カリフォルニア州連邦地裁でMasimoの企業秘密盗用訴訟が審理されたが、陪審が判断に至らずミストライアルとなる ⁶ 。	6
2023年10月	ITCが最終決定としてApple Watch Series 9とUltra 2の米国への輸入を禁止する命令を出す。Appleは直ちに血中酸素機能を無効化したモデルを販売し、控訴を提起 ⁷ 。	7
2024年1月	ITCの輸入禁止命令が一時停止後に再開される。Appleは血中酸素機能を一時的に無効化したまま販売を継続し、判決に対する連邦巡回区控訴裁判所への控訴を進める ⁷ 。	7
2024年1月18日以降	米国内で販売されるApple Watch Series 9/Ultra 2では血中酸素機能が無効化され、計測データはiPhoneでのみ閲覧できるようになる ⁸ 。	8
2025年5月	Masimoは米国税関・国境警備局（CBP）がAppleによるソフトウェア改良版の血中酸素機能を認めたことについて異議を申し立てる。CBPがITC命令を無効化するような決定を下したとして訴訟を提起 ⁹ 。	9
2025年8月	Appleは血中酸素機能を再設計し、測定はApple Watchのセンサー、計算はiPhone上で行い結果をHealthアプリに表示するアップデートを公開 ¹⁰ 。CBPはこの新機能はITC命令に抵触しないと判断した。	10
2025年9月	MasimoがCBPを提訴した件について、専門家は「輸入差止命令を回避するための新たな戦術になり得る」と分析。CBPの権限とITC命令の関係が争点となる ¹¹ 。	11
2025年11月	ロサンゼルス連邦陪審がMasimoの特許侵害を認定し、Appleに約6億3,400万ドルの支払いを命じる。Appleは控訴を表明し、Masimoは「イノベーションを守る勝利」と評価 ¹² 。	12

3. 技術的な類似点と相違点

3.1 Masimoのパルスオキシメータ特許

特許10,433,776は、パルスオキシメータが酸素飽和度や脈拍などの生理データを連続的に取得しながら電力消費を低減する技術に関する。サンプリング間隔や事前に設定したパラメータを監視し、低電力状態への遷移や解除を制御することで、イベント（酸素飽和度低下など）を見逃さずに測定を継続する¹。この技術は医療用モニターなど、長時間にわたり常時計測を行うデバイス向けに設計されている。

3.2 Apple Watchの血中酸素ウェルネス機能

Apple WatchのBlood Oxygenアプリは、医療ではなく「ウェルネス用途」を想定している。Appleのサポートページによれば、バックグラウンド測定機能を有効にすると日中に自動的に測定を行うが、ユーザーが腕を動かさず15秒間静止する必要がある、結果は医療診断に使用すべきではないと明記されている⁸。2024年1月18日以降に米国内で販売されるモデルでは、血中酸素データをApple Watch上では表示できず、iPhoneのHealthアプリでのみ閲覧できる仕様に変更された⁸。

3.3 技術的類似点と相違点の分析

要素	Masimo特許の特徴	Apple Watch機能	分析
測定方式	パルスオキシメータを用いた連続的な酸素飽和度・脈拍の測定とイベント監視 ¹ 。	センサーで血液の光学特性を測定し、短時間で計算。バックグラウンド測定はあるが、測定には15秒間の静止が必要 ⁸ 。	両者ともパルスオキシメトリ技術を利用するが、Masimoは連続測定を前提とするのに対し、Apple Watchは断続的なウェルネス計測で医療目的ではない。
電力管理	サンプリング頻度を調整し、低電力状態の判断に複数パラメータを用いることで、イベントを逃さず省電力を実現 ¹ 。	バッテリー効率は考慮されるが、Appleは計測頻度や電力制御の詳細を公開していない。	特許の根幹である電力管理アルゴリズムの類似性を示す具体的証拠は公表されておらず、陪審では「患者モニターか否か」が主な焦点となった。
データ処理場所	医療用デバイス内部で計算を行い結果を提供。	2024年以降米国モデルではデータ処理をiPhone側に移行し、Watch上には結果を表示しない ¹⁰ 。	Masimo特許には処理場所の規定はないが、Appleは処理をiPhoneに分離することでモニター機能を弱め、ITC禁令を回避しようとした。
用途	医療用患者モニターで血中酸素濃度低下を迅速に検出。	ウェルネス向けであり医療診断や治療には使用しないと明言 ⁸ 。	用途の相違を強調することがAppleの主張だったが、陪審は機能の実態を重視して認定した。

3.4 争点のまとめ

技術的な観点では、双方ともパルスオキシメトリを利用しているものの、Masimoは連続的な患者監視を目的とする一方、Apple Watchは短時間のウェルネス測定に限る点が異なる。陪審は実際に高心拍数警告が高い感度で発動し「患者モニター」と同等の機能を果たしていると判断したため、技術的違いより機能利用実態が裁判の帰趨を決めたと言える。

4. Apple側の公式声明と反応

4.1 判決に対する反応

Appleは判決直後、ロイターなどのメディアを通じて「Masimoは過去6年間に米国内外で25件を超える訴訟を提起しており、そのうちほとんどの特許が無効化または取り下げられている。今回の特許は2022年に失効した過去の技術に基づくもので、判決に失望しており控訴する」とコメントした²¹³。一方Masimoは公式声明で、陪審が特許の有効性を認めたことを「イノベーションを守る重要な勝利」と評し、知的財産の保護に今後も尽力すると述べた¹²。

4.2 ソフトウェア更新による回避策

ITCの輸入差し止命令を受け、Appleは2023年12月以降に販売するApple Watchから血中酸素機能を一時的に無効化した。その後、CBPの判断を受け、2025年8月に血中酸素計測の再設計を発表した。センサーはWatch上で測定を行うものの、計算はiPhone上で行い、結果はHealthアプリでのみ表示される¹⁰。こうした設計変更は、Masimo特許で対象とする「患者モニター」からApple Watchを切り離し、輸入禁止措置を回避する狙いがある。ソフトウェアアップデートの提供と並行してAppleは控訴審への対応を続けている。

4.3 控訴の見通し

専門家は、控訴審で判決が覆されるかは、特許侵害の判断基準や「患者モニター」の解釈がどこまで広がるかにかかっていると指摘する。Masimoが提訴した貿易秘密訴訟でミストライアルが続いていること、CBPに対する訴訟で輸入禁止の範囲が争われていることなど、複数の訴訟が並行して進むため、最終的な和解やライセンス契約につながる可能性もあると見られている⁹。

5. 市場への影響と経営陣のコメント

5.1 株価の反応

裁判の報道後、Masimo株の即時的な反応は限定的だったが、2025年第3四半期決算発表と合わせて株価が前日比約2.75%上昇したとの分析があり、投資家は損害賠償金やライセンス収入への期待を反映した¹⁴。一方Appleは時価総額が大きく、損害額が利益全体に与える影響は限定的であり、市場ではAppleの戦略的対応や控訴結果に注目が集まっている。

5.2 Masimo経営陣のコメント

MasimoのCEOであるジョー・キアニは以前から「我々の特許は医療技術の革新を守るためにあり、侵害する大企業とは戦う」と強調しており、今回の判決に際しても「法の支配によってイノベーションが守られた」と述べた¹²。また、ITC決定の後には「将来のウェアラブル医療機器にとって重要な前例だ」とコメントしている⁷。

5.3 Apple経営陣のコメント

公開された声明では、Appleは特許の多くが無効化されていることや、今回の特許が既に失効していることを強調し、「Apple Watchの革新的な健康機能を引き続き提供するために控訴する」と述べた²。Appleは血中酸素機能の更新版を発表するなど、法的リスクを最小限に抑えながらサービスを継続する姿勢を示している。

6. 専門家の見解と控訴審の見通し

6.1 法務アナリストの分析

法律事務所のコール・ショッツやMcKool Smithの分析によれば、MasimoがCBPを提訴した行動は「ITCの輸入差し止命令を回避するためのロードマップになる可能性がある」と指摘されている¹¹。輸入禁止命令とCBPの裁量権のバランスが焦点となり、他の企業が同様の戦略を採用するきっかけになる可能性がある。控訴審では特許の有効性、患者モニターの定義、電力管理アルゴリズムの類似性などが再検討される見込みで、判決維持の可否は専門家の間でも意見が分かれている。

6.2 和解の可能性

投資家向け分析では、Masimoが約100件のパルスオキシメトリ関連特許を保有しており、Appleはライセンス契約または和解によって法的リスクを低減する可能性があるとは指摘されている¹⁵。ただし、Appleが特許の無効を主張しているため、控訴審が一定期間続く可能性も高い。知的財産権専門家は、長期的な紛争が両社にコストを強いることから、一定のロイヤリティ契約に基づく和解が現実的との見方を示す。

7. ウェアラブルヘルスケア市場への波及効果

7.1 テック企業と医療機器メーカーの関係

今回の判決は、大手テック企業が医療機器メーカーの特許技術を採用する場合の法的リスクを浮き彫りにした。ウェアラブルデバイスは健康モニタリング機能を拡充することで競争力を高めているが、医療機器メーカーは長年にわたる研究開発と規制対応を行っており、技術移転やライセンスの交渉が不可欠である。Masimoは同分野で100件以上の特許を保有し、今回の判決によって知財ポジションが強化された¹⁵。

7.2 イノベーションと特許訴訟のバランス

特許訴訟は新規参入者のコストを高めイノベーションを遅延させる可能性がある一方、技術開発企業に対する正当な報酬を確保する役割もある。投資家向けの分析によれば、今回の事例は医療テクノロジー企業の価値評価においてIPポートフォリオの重要性を再認識させた¹⁶。ウェアラブル市場では、パルスオキシメトリ、心電図、血糖測定など医療機能の拡充が競争要素となっているが、同様の特許紛争が増えれば、各社は複数の技術ソリューションを模索しリスク分散を図る必要がある。

結論

2025年11月の陪審評決は、Apple Watchの血中酸素ウェルネス機能がMasimoのパルスオキシメータ特許に抵触すると認定し、6億3,400万ドルという巨額の損害賠償を命じた。この判決は、ウェアラブルデバイスが医療機器にどこまで近づいているかという境界線を問い直す重要な事例である。患者モニターの定義や特許の有効性を巡り控訴審が続く一方、Appleはソフトウェア更新によって機能を一部変更し、ITC禁令を回避する姿勢を見せている。投資家や専門家の間では、最終的にライセンス契約による和解が成立する可能性も指摘されている。今回の裁判は、ウェアラブル市場での医療関連技術の使用に伴う法的リスクを示し、今後のデバイス開発や企業戦略に影響を与えるだろう。

¹ U.S. Patent for Low power pulse oximeter Patent (Patent # 10,433,776 issued October 8, 2019) - Justia Patents Search

<https://patents.justia.com/patent/10433776>

² Masimo wins \$634M in Apple Watch patent infringement suit

<https://appleinsider.com/articles/25/11/15/masimo-awarded-634m-in-apple-watch-patent-infringement-verdict>

³ ¹³ Apple hit with \$634 million verdict in Apple Watch patent fight with Masimo - 9to5Mac

<https://9to5mac.com/2025/11/15/apple-hit-with-634-million-verdict-in-apple-watch-patent-fight-with-masimo/>

⁴ Apple Ordered to Pay Masimo \$634 Million in Patent Fight Over Apple Watch

<https://www.macosserver.com/news/apple-ordered-to-pay-masimo-634-million-in-patent-fight-over-apple-watch/>

⁵ Apple Watch infringed on Masimo patent, judge rules, raising prospect of import ban | MedTech Dive

<https://www.medtechdive.com/news/AAPL-MASI-Apple-Watch-Patent-Infringement-ITC-Masimo-Oximeter/640239/>

6 Masimo suit against Apple over smartwatch trade secrets ends in mistrial | MedTech Dive

<https://www.medtechdive.com/news/Apple-Masimo-mistrial-lawsuit-MASI-AAPL/649185/>

7 Apple Asks Appeals Court to Reverse Smartwatch Import Ban as Masimo Patent Battle Continues

<https://www.mddionline.com/wearable-medical-devices/apple-asks-appeals-court-to-reverse-smartwatch-import-ban-as-masimo-patent-battle-continues>

8 Measure blood oxygen levels with the Blood Oxygen app – Apple Support (AU)

<https://support.apple.com/en-au/guide/watch/apdaf17aa5ef/watchos>

9 Why Masimo's 'Rare' Move Pushes Apple Case into Uncharted Territory | Cole Schotz

<https://www.coleschotz.com/news-and-publications/why-masimos-rare-move-pushes-apple-case-into-uncharted-territory/>

10 An update on Blood Oxygen for Apple Watch in the U.S. - Apple

<https://www.apple.com/newsroom/2025/08/an-update-on-blood-oxygen-for-apple-watch-in-the-us/>

11 mckoolsmith.com

<https://www.mckoolsmith.com/assets/htmldocuments/>

2025%2009%2003%20Why%20Masimo%E2%80%99s%20%E2%80%98Rare%E2%80%99%20Move%20Pushes%20Apple%20Case%20into%20Uncha

12 Masimo - Masimo Issues Statement on California Jury Verdict Finding Patent Infringement by Apple and Awarding Masimo \$634 Million in Damages

<https://investor.masimo.com/news/news-details/2025/Masimo-Issues-Statement-on-California-Jury-Verdict-Finding-Patent-Infringement-by-Apple-and-Awarding-Masimo-634-Million-in-Damages/default.aspx>

14 Intellectual Property Enforcement in Medical Tech: A New Valuation Paradigm Post-Masimo vs. Apple

<https://www.ainvest.com/news/intellectual-property-enforcement-medical-tech-valuation-paradigm-post-masimo-apple-2511/>

15 MASI News Today | Why did Masimo stock go down today?

<https://www.marketbeat.com/stocks/NASDAQ/MASI/news/>

16 Apple-Masimo Patent Dispute: Implications for Tech Ecosystem Valuation and Innovation Risk

<https://www.ainvest.com/news/apple-masimo-patent-dispute-implications-tech-ecosystem-valuation-innovation-risk-2511/>